

平成29年度 防衛大学校入校式
防衛大学校長式辞

本日、ここに平成29年度防衛大学校入校式が無事に挙行されました。本年度は、新たに、本科65期468名、大学院にあたる理工学研究科前期課程（修士課程になります）48名、同後期課程（博士課程になります）6名、及び総合安全保障研究科前期課程14名、同後期課程1名の学生諸君を迎えることができました。

本年も、本校はアジア諸国から数多くの優秀な留学生諸君をお迎えいたしました。本日本科に入校するのは全体で9か国27名、タイ王国、フィリピン共和国、大韓民国、ベトナム社会主義共和国、モンゴル国、カンボジア王国、東ティモール民主共和国、ラオス人民民主共和国、及びミャンマー連邦共和国からの留学生諸君です。韓国以外の留学生諸君は、本校での1年にわたる日本語研修を経ていよいよ本科課程に入ることになります。

すべての新入生諸君に対して、本校を代表して、心よりお祝いと歓迎の意を表します。

新入生諸君、入校おめでとう！

本日の入校式に当たり、若宮健嗣副大臣をはじめ多数のご来賓、そして全国から数多くのご家族・ご親族のご臨席を賜りました。ご参列の皆様方に対しまして、本校を代表して、厚くお礼を申し上げます。

本日の入校式には、防衛大学校にちょうど60年前に入校された第5期の先輩方が多数ご参列されています。これは昨年からはまったホームカミングデー・パート・ツーと呼ばれるものであります。従来のホームカミングデーは卒業43年の平均年齢65歳の方々を卒業式にご招待していますが、昨今の長寿時代を反映いたしまして、これに加えてホームカミングデー・パート・ツーとして、入校60年、つまり平均年齢78歳の卒業生の皆さんを、今度は入校式にお招きすることにいたしました。本日は、ご家族も含めて200名を超える防大の先輩方が新入生諸君を激励するために参列されています。

ご参列の皆さま、防衛大学校の基礎を作り、卒業後は日本の平和と安全のために任務を全うされた第5期の先輩たちに盛大な拍手をお願いいたします。どうぞ。

おかえりなさい。

ありがとうございます。

先日の卒業式の式辞でもご紹介させていただきましたが、第5期の期生会長である中村雅嘉氏は、防大における同期の絆こそが人生最大の宝であると語られています。私の知りうる限り、これほど卒業生の絆が固く熱い同窓会組織を持った大学は日本には防大以外にないと確信いたします。それは4年間、規律正しい生活の中で勉学・訓練・寝食を共にし、喜びも苦しみもすべて共有しあっているからであります。しかも防大には、将来自衛隊の幹部として、日本と世界のために一生を捧げる覚悟と人格を形成するというきわめて明確な目的があります。防大は日本における唯一無二の最高の大学である、私はそう確信しています。

さて、本日参列された第5期生の皆さんが防大に入校されたのは、1957年(昭和32年)のことです。現代史において、この年は国際政治における重要な転機でありました。「ミサイル・ギャップ」と呼ばれる出来事が起こったのであります。当時超大国の一つとして君臨していたソビエト連邦共和国(ソ連)が、アメリカとの軍事競争の中で優位に立ったと世界が認識した年です。

ソ連が大陸間弾道弾(ICBM)と人工衛星スプートニクの打ち上げに成功したのがこの年です。当時すでに米ソともに核兵器を保有しておりましたが、核技術開発と宇宙技術開発において、ソ連がアメリカを凌駕したとの議論が「ミサイル・ギャップ」であります。その真偽はともかくも、これがこの時代の米ソ冷戦に対する世界の認識でありました。米ソの核戦争すら想定されたこの時代に第5期生は入校されたのであります。

それから34年後の1991年、ちょうど第5期生の皆さんが自衛隊を退官された頃、ソ連は崩壊し、米ソ冷戦も終焉いたしました。皆さんはその自衛官生活を通じて、同盟国アメリカと協力しあい、主として北方の守りを固め抜いたのであります。その結果、日本は平和を守り抜き、経済成長を謳歌することができました。第5期の防大卒業生の皆さんは、厳しい冷戦に勝利したのであります。

今日、日本を取り囲む安全保障の焦点は、北方から朝鮮半島と南西諸島に移りました。その情勢は年々緊迫しております。本日入校する新入生諸君は60年後、どのような世界に向き合っているのでしょうか。それを簡単に予言することはできません。60年前、ソ連と冷戦の崩壊、今日ほどのヒト・モノ・カネのグローバルな世界、あるいはテロリズムやサイバーの攻撃など、こうした出現を予測することはできませんでした。ただ、いかなる状況であれ、たとえ60年後の世界においても、次の3点は蓋然性の高い現象として指摘できるのではないかと思います。

第一は、国際関係における国家の存在の大きさであります。グローバルな世界の中で国家の役割が縮小化されるとの議論がかつてありました。しかしグローバル化が進めば進むほどかえって国家という単位の重要性が増大し、国家間の利害関係の調節が難しくなってきました。この現象はおそらく今世紀末の世界においても変わることなく、国家間の対立や紛争が絶えることはないでしょう。

第二に、にもかかわらず、グローバル化は今後ともさらに進化するということがあります。ヒト・モノ・カネはさらに流動化し、ITが進化し、サイバー空間やロボットの世界が広がる。そうした発展のなかで、新しい世界を守るための仕組みの構築と強化が求められるでしょう。

第三は、地球の自然現象という人類の想像と統治能力を超えた共通課題が、今後とも多く発生するでしょう。地震・津波・火山噴火・洪水、干ばつ、温暖化現象等々、止めることのできない自然の猛威に対して人類はどう対応するのでしょうか。災害復興支援の分野、今後とも大きなニーズがあると思います。

いずれの課題を考えてみますと、今後とも自衛隊の任務は重要であり、国民や世界からの期待も高まるばかりでしょう。このような将来を見越して、自衛隊のリーダーたちに求められることは、つまるところ、危機や有事の際の瞬時の判断力と決断力です。そうした能力を育成するために、いま、防大生のうちに養うべき資質とは何でありましょうか。それがまさに智・徳・体の三位一体であります。つまり、諸君は、勉学、体力錬成そして人格形成に励んでもらいたいと思います。

今から60年後、時代状況がどうあろうとも、今日、本日ここに集った新入生諸君たちが無事に責任と任務を完遂し、今日と同じように防大125期生の入校式に参列し、60年後、65期の同期の仲間たちと笑顔で再会を果たしている、私はそう確信しています。

新入生諸君、君達は防衛大学校の新たな高みへ向けた共同事業の中心であり、主役であります。より良き防大の将来へ向けて、共に前を見て進みましょう。

改めて、新入生諸君の入校を歓迎いたします。
入校、おめでとう！

平成29年4月5日
防衛大学校長 國分 良成